

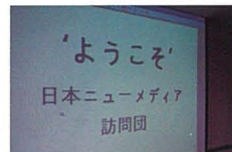


# なぜ韓国が強引なまでに4Kへ邁進するのか!?

## ケーブル「アナログ」受信800万の争奪が一つの要因だ

4月にケーブルテレビが4Kの本格サービスを開始したのを皮切りに、6月1日に衛星放送スカイライフが4K商用サービスを、10月からケーブルテレビ界のコンテンツアグリゲーターであるホームチョイスが「UMAX」の名称でVOD配信サービスを始めた。また、9月に行われたアジア大会で地上波テレビ3局が4K生中継に取り組むなど、4Kサービスへ挑戦が怒濤のように動いている。本誌は、その現状をつぶさに把握するための専門調査ツアーを15名のメンバーで10月7日～9日、ソウルを中心に実施した。今号と次号の2回にわたって報告する。

(レポート：吉井 勇・本誌編集長、写真：平石能敬・ビデオ・テック社長)



ツアーメンバー（2日目午前前に訪問したKT スカイライフ）



受信システムの仕組みを調べるツアーメンバー（KT スカイライフ）

### 多くの訪問先と盛りだくさんの内容がKCTAパク広報部長の尽力で実現

今回の韓国4K本格サービス専門調査ツアーは、昨年8月に実施した韓国4K地上波実験放送専門調査ツアーの続編で、ケーブルテレビ事業者とケーブルMSOの5社が中心となって設立しているホームチョイス、衛星放送事業者KTスカイライフの4Kサービスと、LG電子の4Kテレビ開発について訪問・調査してきた。

意欲的な韓国4Kサービスについて、各事業者の技術、編成サービス内容、事業ビジョンなどを聞いた〔表〕。総勢15名のツアーメンバーは、放送局、ケー

ブルテレビ業界、広告会社、ベンダーなど多岐にわたる構成となった。訪問先は〔表〕の通りであるが、依頼時点ではアジア大会を機に4K制作のシステム整備を行ったケーブルテレビMSO事業者のt-broadと、9月から実験放送に取り組むIPTVのSKブロードバンドの2社は訪問を受け入れてもらえなかった。その理由は次のようなものだった。

t-broadは7月から発生した労使問題でストが進行中。会長が空席で外部対応が厳しい状況。会社の状況が穏やかではないため、今回の訪問は申し訳ないが次回にしてもらいたいという連絡があった。なお、t-broadの4KコンテンツはUMAXで見られるので、そこである程

度のことを理解してもらえるということであった。

SKブロードバンドからはコンテンツとサービスはまだまだの状況で、訪問受け入れはまだ負担とのこと。

これら訪問先への依頼では、韓国ケーブルテレビ放送協会（KCTA）のパク・スンボム広報部長の絶大な協力を得た。パク部長には前回のツアーでも協力をさせていただき、その後も連絡を取り合い、7月末に行われたケーブルショー視察で来日。その際、日本の次世代放送推進フォーラム訪問のアレンジを手伝ったりする関係となった。